宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2020

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

空海の真言密教から大師信仰へ

コロナ後の「新しい生活」と宗教

緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスと共存する「新しい生活」が始まった。後の時代に、令和2年（2020）に時代が変わったと世界史に記されるかもしれない。では宗教はどう変わるのか。薬師寺の大谷徹奘（てつじょう）執事長は「自粛は、訓練を重ね、新しい生き方を身につける好機」だと言う（読売新聞5月31日付）。つまり、人間の内面に目を向けよということ。そこで、真言密教を開き、『秘密曼荼羅十住心論』で当時の代表的な思想を見事に体系化した空海を手掛かりに考えてみた。（多田則明）

宗教学者の島田裕巳は日本仏教は五層で発展したとする（『教養としての世界宗教史』宝島社）。基層にあるのが飛鳥時代から奈良時代にかけての南都六宗（三論宗・成実宗・法相宗・倶舎宗・華厳宗・律宗）で、その上に大乗仏教の代表的経典である法華経に基づく法華宗が取り入れられ、次に平安時代初期に空海が唐から持ち帰った密教が仏教界を席巻する。その上に来るのが浄土思想で、法然は念仏以外の行を必要としない「専修念仏」を説き、親鸞がそれを徹底させた。最後の層が禅宗で、鎌倉時代以降、弾圧で仏教が衰退した中国から多くの僧が渡来し、貴族に代わって政権を担うようになった武士に受け入れられたことから、広く日本に定着していった。

信者の数では浄土真宗が、寺の数では曹洞宗が最も多いとされるが、密教が重要なのは、古代インドで生まれた仏教の最終ランナーだからである。紀元前500年頃に生まれたとされる釈迦に始まる初期仏教から後に発展した大乗仏教、さらにインド土着のヒンドゥー教まで取り入れている。

初期仏教では自身の悟りを得、解脱することが最高目的のため、出家して修行するのが基本で、衣食住はもっぱら布施に頼っていた。個人の精神的な救いが優先され、社会とのかかわりは最小限とされたのである。それが、布教の拡大により社会との関係が無視できなくなったことから、1世紀ころ、大衆の救いを優先する大乗仏教が生まれる。その最終形態が密教で、中国を経て日本に伝えられた。もう一つチベットに伝わった密教もある。

弘法大師が入定している高野山奥之院

密教の最大の特徴は、宇宙そのものを人格的に具象した大日如来との一体化を説いたこと。それが生身のまま仏になる即身成仏で、死後の成仏を目指す浄土教とは対照的である。

松岡正剛は「仏教とはせんじつめればいかに意識をコントロールできるかという点にかかっている」（『空海の夢』春秋社）とし、マクロコスモスの梵（宇宙）とミクロコスモスの我の「梵我一如」が仏教以前のヒンドゥイズムの構想で、釈迦は没我によりそれを果たそうとしたとする。

しかし、社会において我を取り除くことは不可能で、恵果から灌頂を受け、両部曼荼羅を持ち帰った空海は、神道が根付く日本的風土の中で即身成仏の理論と修法を確立したのである。インド的、中国的風土では不可能だった理想が、日本で初めて実現したとも言えよう。松岡は空海の「内と外」に対する絶妙な感覚を高く評価し、それは恵果の「内外の一対」という感覚を学び、規範としたからだとする。

『空海と霊界めぐり伝説』（角川選書）を書いた上垣内憲一・前大妻女子大学教授に中国で密教が滅んだ原因を聞いたところ、「密教は法具にお金がかかるため、権力者の保護を受けないと存続できない」とのことだった。確かに、中国や朝鮮で残ったのは浄土宗と禅宗が混合した、あまりお金のかからない仏教である。恵果に早く日本に帰り、密教を広めるよう諭された空海も、朝廷に取り入れられる道を秘かに探っていたのであろう。

さらに空海にとって宇宙には社会や統治機構も含まれ、それとの一体化を自らに課したに違いない。そのため唐では仏教だけでなく、土木や建築技術、水銀の精錬法なども学んだとされる。それらは社会や国と一体化するために必要な技法であった。満濃池の修築なども、内面の宗教的価値だけではなく、具体的な技術で臨んだから成功したのである。

空海・弘法大師

都を護る東寺と、修行の道場としての高野山を残し、宮中で初めて後七日御修法を修した835年に空海は没し、921年に醍醐天皇から弘法大師の諡号が贈られた。空海は生きて各地を訪れ、衆生の救済に尽くしたとある。

（3面に続く）

社説

「自粛」を成長の期間に

新型コロナウイルスに感染しないよう「自粛」を心掛ける新しい生活が始まった。長期間、宇宙ステーションで巣ごもり生活の経験がある宇宙飛行士の若田光一さんが、「自粛の期間は成長のチャンス」とテレビで話していた。自分の内側に目を向け、成長とは何かを考え、そこに向け日々努力するのが自粛の核心かもしれない。それは修行とも言えよう。

若田さんは、将来が見えないときこそ、「今を大切に、目の前のこと、周りのこと、人たちに誠実に向き合う」とも言っていた。それは日常の暮らしの中に修行を根付かせてきた、日本の宗教が目指している境地でもある。

もちろん、内面を深める手立ての一つである宗教も変わらなければならない。

死の終わりに冥し

仏教の最終段階である密教を日本にもたらし、修験道が培ってきた古来の自然信仰や神道の教えも取り入れ、真言密教の教理と修法を完成させた空海が説いた即身成仏は、大宇宙を具象する大日如来と自分が一つになることを目指している。来世ではなく現世での成仏にこだわったのは、日本人が心底そう願っていたからであろう。

その空海が『秘密曼荼羅十住心論』をみずから要約した『秘蔵宝鑰（ほうやく）』の一節で「生まれ生まれ生まれて生のはじめに暗く、死に死に死に死んで死の終わりに冥し」と述べている。自分の死の意味を考えるのは人間だけで、それが人間の内面を見る目を養ってきた。その蓄積を言葉と動作、リズムなどで表現しているのが宗教とも言えよう。

仏教であるなら、ブッダが体験したことを追体験しながら、自らを深めていくのが修行になる。空海はじめ多くの宗祖たちは、その道を手本として後進に残している。しかし重要なことは、私の道は私でしか歩めないという現実である。借り物の道であってはならない。

そのことを過激な言葉で表現したのが、臨済禅師の「仏に逢えば仏を殺し、祖師に逢えば祖師を殺し……」（『臨済録』）である。真実の自己に出逢うためには、自分を惑わせるもの、特に権威をもって自分に迫ってくるものは、たとえそれが仏や祖師、父母や親族であっても、徹底して否定しなければならないというのである。ブッダも「己れこそ　己れの寄る辺己れを措きて　誰に寄る辺ぞ　よく調えし己れにこそ　まこと得難き寄る辺をぞ得ん」（『法句経』）と説いており、個を大切にする思想は古代からあったのである。

その「個」は内外ともに閉じられたものではなく、周りの人や環境に開かれたものである。子供の成長過程を見ても分かるように、出会う人たちや事象の影響を受けながら、自分を形成していくのであり、それは死ぬまで続く。大宇宙との一体化も、人間が開かれた存在であればこそで、宇宙は自身を認識させるために人間を生んだという考えもある。

では、成長とは何であろうか。周りの人や環境を取り込みながら、納得できる自分自身を形成し続けることと言えよう。外的な暮らしや経済よりも、内的な自己形成が大切であり、そのための道を説いてきたのが宗教である。

ところが、宗教は権威をもって語られ、人々に信じることを迫るため、本来の目的を失ってしまうことが多い。自分の思いを否定する期間は修行としてある程度必要だが、それは自分で考えられるようにするためであり、信者をそう指導しない宗教指導者は、そもそも指導者として失格なのである。もちろん、それは宗教に限らない。

大日如来が具象した宇宙には人間社会も含まれている。私たちが暮らす家庭や地域、仕事などもその一部であり、それらを総合したのが私という存在である。若田さんは自分を成長させるポイントとして、周りの人の求めを正確にとらえ、その期待に応えようとする姿勢を挙げている。そして、ユーモアを忘れずにとも。人生の潤滑油のようなもので、自分自身にもユーモアを発するゆとりを持ちたい。それが誰でも日常生活の中で出来る修行である。

宗教は人づくり

宗教の本質は人づくりにある。どんな人を育ててきたかで宗教は評価されよう。歴史的に磨かれてきた人づくりの道を、自粛の時代にどう生かすかが、宗教には問われている。

時代や人々が宗教を育てる側面もあり、それに適応した宗教が今日も存続しているのである。それゆえ、今の時代に一人ひとりを成長させるために何ができるかを問うことで、宗教自身も変わることが求められている。

伊勢山皇大神宮で例祭
新型コロナウイルス終息を祈願
横浜市

横浜の総鎮守、神奈川県横浜市の伊勢山皇大神宮（阿久津裕司宮司代務者）で5月15日「緊急事態宣言」を受け、例祭が神職と代表役員らのみで斎行された。

午前10時、斎主（阿久津裕司宮司代務者）以下祭員が参進、祓い所で修祓の儀、斎主以下祭員が神楽殿の所定の座に着いた。次に斎主一拝、御扉を開いた後、神饌を供し、本廳幣・神社幣を献じた。祭員奉賛会が初穂を献じた後、斎主が祝詞を奏上。2人の巫女が浦安の舞を奉奏した後、斎主が玉串を奉って拝礼し、参列者が続いて玉串を奉奠。本廳幣・神社幣・奉賛会初穂・神饌が徹せられ、斎主は御扉を閉じ、本座に着いた。斎主一拝し、例祭は滞りなく修められた。

阿久津宮司代務者が挨拶し、「本来なら、初夏の風薫るこのような日に創建150周年の奉祝祭典と奉祝行事を行うはずで、皆様も楽しみにされていたと思う。

私どもも記憶にそして記録に残る祭典をと考えていたが、残念ながら1年先送りになった。神社としても厳しい状況にあるが、それでも参拝する方々、一心に祈りを捧げる方々がおられ、この神社が心の拠り所であることを実感した。多くの崇敬者に支えられている神社は、祈りを捧げることが非常に重要であると考え、毎日、コロナウイルス感染症の鎮静祈願を行っている。古来日本人は疫病と戦い、一心に神様に祈りを捧げてきた。それが日本の祭りや記憶に残っている。先人たちの智慧を我々も学んでいきたい」と語った。

伊勢山皇大神宮では参拝者に「疫病鎮御祈禱之札」を配布している。新型コロナウイルス感染症の災厄にあたり、神前に祈念し御神札を奉製した。同宮の象徴でもある桜には荒ぶる存在の魂を鎮める力があるとされ、境内には、花鎮め（疫病鎮め）で霊験あらたかな、三輪明神大神神社より分霊された磐座も祀られている。参拝者は玄関に飾って大神様の御加護を賜るため、それぞれ御札を受け取っていた。

明治3年、神奈川県は横浜の象徴、人々の心の拠り所として伊勢山皇大神宮を創建した。明治4年に正遷宮が執り行われ、伊勢神宮より勧請されたと伝わる古社を再興し、横浜総鎮守として祀るにあたり、県は5日間にわたる盛大な祭礼を行った。その総費用は15万両で、当時の外務卿は「外務省の半年の予算に匹敵する」と驚いたという。

神奈川県は、同宮を伊勢神宮の「別宮」とするよう政府に願い出ていたが、叶わなかった。創建150年の記念として、伊勢神宮内宮より正殿本宮に連なる西宝殿を賜り、同宮の新たな本宮として移築された。これは池田同宮宮司の熱意と、横浜の総鎮守として格別の配慮があってのこと。平成30年に本殿遷座祭が行われ、伊勢より勧請された神霊が、伊勢より遷された社殿へ鎮まったのは、同宮を「別宮」にと願った明治の人々の思いが叶ったようでもある。来年5月には創建150年記念式典が開催される予定。

神前に拝礼する斎主の阿久津裕司宮司代務者=5月15日、神奈川県横浜市の伊勢山皇大神宮

灯

「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は、地上にいるすべての民の中からあなたを選び、ご自分の宝の民とされた。あなたがたがどの民よりも数が多かったから、主があなたがたに心引かれて選んだのではない。むしろ、あなたがたは、どの民よりも少なかった。ただ、あなたがたに対する主の愛のゆえに、また、あなたがたの先祖に誓われた誓いを守るために、主は力強い手によってあなたがたを導き出し、奴隷の家、エジプトの王ファラオの手から、あなたを贖い出したのである。あなたは、あなたの神、主こそ神であり、真実の神であることを知らなければならない。」（申命記7：6―9）

かつて創造主なる神はイスラエルの民を選び、「我が宝の民」と呼んで特別な使命を与えた。モーセを通してみ言を与え、戒めを守るよう諭した。それは神と人との揺るぎない愛の絆を築くためであった。さらに全ての人間が、人間を超えた創造主と親しい関係性に至るためであった。こうした民の自己理解が現実の困難を越えて人類の恒久平和を追求する原動力ともなった。（I）

天地

4月にこしひかりを植え、6月はあきさかり。福井県農業試験場で2008年に誕生した品種で、きぬひかり系とこしひかり系の稲を交配し、こしひかりより収穫期を遅くした。こしひかりのもちもち感と、甘みとうま味が特徴▼こしひかりの水田は中干という、水を抜いて田を干す作業を行う。そうすることで苗は分けつして茎を増やし、たくましくなる。こしひかりの欠点は倒れやすいことなので、この作業が欠かせない。どこか子育てに似ている▼6月には各地の神社でお田植祭がある。早乙女たちが早苗を植える風景は、米づくりの国日本を実感させる。弥生時代から繰り返してきた米作が、日本人をつくってきたように思う。稲を自分の分身のように世話し、田植えなどでは地域の人たちと共同作業を行う。そこから人や自然との接し方を学び、成長してきた▼農業が個人化したのは田植え機が導入されてから、家内労働だけで完結するようになったからだ。それが農家の高齢化、後継者不足で、再び共同化に向かいつつある。でも、それは日本にとっていいことで、私にとってもいいことにしたい▼順番で自治会長になったので、初めて写真入りの「お便り」をつくり、市からの広報資料と一緒に配った。地域の活動をみんなに知ってもらうためで、花のプランターを小学校に寄贈したニュースが目玉。通学路そばの田んぼに咲かせたレンゲも好評だった。草刈りなどの参加者も増え、楽しそうに活動しているのがうれしい。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162−0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL 078(882)9305 FAX 078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
四六判158頁 定価1,365円（税込）
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com